【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第４部門第１区分
【発行日】平成18年10月26日(2006.10.26)

【公開番号】特開2005-105545(P2005-105545A)
【公開日】平成17年4月21日(2005.4.21)
【年通号数】公開・登録公報2005-016
【出願番号】特願2003-336616(P2003-336616)
【国際特許分類】
Ｅ０３Ｄ　9/00　(2006.01)
Ｅ０３Ｄ　9/08　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｅ０３Ｄ　9/00　Ｆ
Ｅ０３Ｄ　9/08　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成18年9月8日(2006.9.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
便器上面に設置したケーシングに機能部品を収納した便器装置において、前記ケーシングと前記便器上面の隙間を塞ぐカバー部材を設け、前記カバー部材の一端を便器上面より下方の便器開口内に対して当接させ、且つ、前記カバー部材の他端を前記ケーシングの便器開口内に臨んだ位置に対して対向させたことを特徴とする便器装置。
【請求項２】
請求項１に記載の便器装置において、前記カバー部材の便器開口内との当接箇所は、弾性体よりなるシール部であることを特徴とする便器装置。
【請求項３】
請求項２に記載の便器装置において、前記カバー部材は、前記シール部と、前記ケーシング下面に取り付けられ、このケーシング下面のうち便器開口部と重なる領域を覆う略平坦形状のカバー部とからなり、前記シール部と前記カバー部は表面が面一に接続されていることを特徴とする便器装置。
【請求項４】
請求項２又は３に記載の便器装置において、前記シール部は、その外周が略円弧形状であって、且つ略円弧形状に沿って凸部を設け、この凸部が便器上面より下方の便器開口内と当接することを特徴とする便器装置。
【請求項５】
請求項１から４の何れか一項に記載の便器装置において、前記カバー部材は、前記ケーシング下面に移動可能又は着脱可能に取り付けたことを特徴とする便器装置。
【請求項６】
請求項３又は４に記載の便器装置において、前記シール部は、前記カバー部に移動可能又は着脱可能に取り付けたことを特徴とする便器装置。
【請求項７】
請求項３又は４に記載の便器装置において、前記シール部は、前記カバー部と一体であることを特徴とする便器装置。
【請求項８】

請求項１から５の何れか一項に記載の便器装置において、前記カバー部材の前方上部と前記ケーシングの前方下面との隙間を覆うように、前記ケーシングより下方に延びる突出部を設けたことを特徴とする便器装置。
【請求項９】
請求項１から５の何れか一項に記載の便器装置において、前記カバー部材は、機能的な表面層を有することを特徴とする便器装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
上記目的を達成するために、請求項１記載の発明によれば、便器上面に設置したケーシングに機能部品を収納した便器装置において、前記ケーシングと前記便器上面の隙間を塞ぐカバー部材を設け、前記カバー部材の一端を便器上面より下方の便器開口内に対して当接させ、且つ、前記カバー部材の他端を前記ケーシングの便器開口内に臨んだ位置に対して対向させたことを特徴とする。これにより、便器装置のケーシング下面と便器上面の間のわずかな隙間に対して、排便・小便の跳ね返りや飛び散りが直接かかるのをカバー部材によって防ぐことで、便器装置のケーシング下面と便器上面の間のわずかな隙間に浸入することを防ぐことが可能である。さらに、清掃の際、従来の便器上面でのシールでは、シール箇所近傍の汚れ具合の目視確認が困難であり、また、手も届かず清掃も困難であったが、本発明のように便器開口内での当接であれば、その当接箇所近傍の汚れ具合の確認や清掃を容易に行うことが可能である。
ここで、本発明ではカバー部材の両端を便器開口内及びケーシングに対して近づけて当接させることにより、夫々の隙間を塞ぐことが望ましいが、例えばケーシングの便器開口内に臨んだ位置に凹凸が存在する場合には当接させることは困難であり、カバー部材の他端をケーシングの便器開口内に臨んだ位置の直近に対向して配置せざるを得ない。
しかし、この場合においても、カバー部材の他端とケーシングの便器開口内に臨んだ位置の間に存在する隙間に汚水が浸入する恐れはあるが、その汚水の量は若干であって便器装置のケーシング下面と便器上面の間のわずかな隙間にまで到達することは起こりにくい。